

令和3年度入学 学校推薦型選抜(一般・特別)、社会人選抜 試験問題の出典
盛岡短大部生活科学科

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	生活デザイン 専攻	谷田貝 麻美子 間瀬 清美	衣生活の科学 – 健康的な衣の環境を めざして –	アイ・ケイコーポレ ーション, 2012年改訂三版より pp.181-182	アイ・ケ イコーポ レーショ ン
	食物栄養学 専攻	辻 一郎	のぼそう健康寿命	岩波書店, 2004年より pp.160-164	岩波書店

令和3年度 学校推薦型選抜（一般）
学校推薦型選抜（特別）
社会人選抜

短期大学部

小 論 文 (90分)

学科・専攻名	ページ
生活科学科 生活デザイン専攻	1～2
生活科学科 食物栄養学専攻	3～4
国際文化学科	5～7

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 志望する学科・専攻により問題並びに解答用紙が異なるので注意ください。
- 3 この問題冊子は7ページあります。なお、下書き用紙が1枚あります。
- 4 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合には手を挙げて試験監督員に知らせください。
- 5 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペン・万年筆などを使用してはいけません。
- 6 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入ください。
- 7 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入ください。
- 8 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用ください。
- 9 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りください。

問題訂正

○訂正内容

教科名 小論文

頁・問題番号・行 1ページ 生活デザイン専攻 問題文 11行目

誤)

- ⑤ 万が一間違っても問題がないもの

正)

- ⑤ 万が一間違っても問題がないもの

生活デザイン専攻

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

「ユニバーサル」という言葉はそもそも“普遍的な”，“一般的な”や“万人に共通の” という意味をもっている。ユニバーサルデザインは、1970年代にアメリカ・ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター所長のロン・メイス（Ron Mace）氏によって、デザインにおける機会平等と社会公正を示すために提唱された概念であり、具現化するために以下の7つの原則がある。人種、性別、年齢、体型、利き手、障がいの有無、言語、経験などに関わらず、できるだけすべての人が利用できる製品を創造・デザインしようとするアプローチであった。

- ① みんなが公平に使えるもの
- ② 使う人それぞれの好みや能力に合わせられるもの
- ③ 使う人の経験や知識に関わらず簡単で直感的に使えるもの
- ④ 必要な情報がわかりやすく示されているもの
- ⑤ 万が一間違っても問題がないもの
- ⑥ 疲れずに使えるもの
- ⑦ 使う人の体型や能力に関わらず使いやすい寸法や空間が整えられているもの

1988年にロン・メイスが述べたユニバーサルデザインの定義「ユニバーサルデザインは、製品や建築ができるだけすべての人に使えるようにデザインしようとするアプローチである」からもわかるように、空間・住環境や製品の創造に焦点が当てられ、オフィスや仕事場、教育環境、スポーツ娯楽施設、造園デザイン、キッチン、トイレ、浴室、そして製品や自動車等のユニバーサルデザインが紹介されている。製品については、ドアの取っ手は、ノブよりもレバーの方が、握りやすく回しやすいため使い勝手が良い。シャンプーボトルの側面両側には、数本の5 mm位の印が水平に刻まれている。リンスやコンディショナーと区別するためである。

障壁（＝バリア）を除去する（＝フリー）デザイン、すなわち「バリアフリーデザイン」という言葉が、世界的には最初に使われた。1950年代後半に建築環境において身体障がい者を阻むバリアを取り除く運動として始まったが、「すべての人のためのデザイン」の方が一般的となり、「ユニバーサルデザイン」が広く使われている。

社会を構成するすべての人が、年齢や能力、障がいなどを超えて、いつでも、どこでも、手軽に、楽しく、活用できる空間、製品、情報、サービスの実現と普及をめざしている。ユニバーサルデザインで解決できるものもあれば、解決できないものもある。ユニバーサルデザインの要素を加えることによって、多くのバリアを改善し、多くの人ができるものを提案することができる。高齢者・障がい者を含めたさまざまな年齢層、ニーズ、能力、必要性、感性に応じ、ノーマライゼーション[®]をめざしたデザイン、ユニバーサルデザインを衣・食・住すべての生活の中で考案することが、今後の社会の中で求められているといえる。

(中 略)

「ユニバーサルファッション」は、「ユニバーサルデザイン」の概念に基づいた衣服であるとともに「年齢や性別，障がいの有無に関わらず，快適に生活できるファッション環境を実現する」事を目指している。

超高齢社会に向かいつつあり，高齢者や加齢による身体機能の低下した人々が，快適なファッション生活を楽しめるようにすることは，極めて重要な意味をもっている。また，障がいをもつ人々も，健常者と同様に生活できる状態を作るバリアフリー化の取り組みが急速に進みつつあるが，そういった中で“高齢者のための衣服”や“障がい者のための衣服”という狭義のものを超えて，“なにに人も”という広い視点でのファッションとして台頭してきた。だから，美しく，楽しく，快適に着られるファッションであるだけでなく，年齢や体型，身体能力等に配慮し，必要とする機能性をも備えていることが要求されている。

(谷田貝麻美子・間瀬清美編著『衣生活の科学－健康的な衣の環境をめざして－』，アイ・ケイコーポレーション，2012年改訂三版，pp.181-182より，一部改変)

注 ノーマライゼーション：高齢者や障がい者などを施設に隔離せず，健常者と一緒に助け合いながら暮らしていくのが正常な社会のあり方であるとする考え方。また，それに基づく社会福祉政策。

問 1 本文では，「バリアフリーデザイン」と「ユニバーサルデザイン」とが，それぞれどのように表されているか，あわせて 100 字以上 150 字以内で述べなさい。

問 2 作者の意見を踏まえて，「ユニバーサルデザイン」における必要性の理由や根拠について，あなたの意見を述べなさい。また，あなたは，衣・食・住の生活に関わる中で，どのような商品に「ユニバーサルファッション」あるいは「ユニバーサルデザイン」が必要だと思うか，あわせて 500 字以上 600 字以内で述べなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

健康な 80 歳代の生き方を振り返ってみますと、彼らは、「気分転換のための活動をしている」、「新聞をよく読む」、「テレビをよく見る」、「外出をすることが多い」といった具合に、実にアクティブに暮らしておられました。結局のところ、本書は、元気高齢者のアクティブな生き方が老化のスピードを遅らせていることの理由を科学的に解明しただけのことかもしれません。

散歩したり、運動したり、趣味ごとに興じたり、社会活動やボランティア活動に参加したり、勉強したり、このようなことが健康寿命[※]をのばしてくれる。アクティブに生きるほど、健康で長生きできる。こういった講演をすると、「このなかで、いちばん効果が上がるものは、どれですか」というご質問を受けることがあります。

それには、「あなたがいちばん好きなものは何ですか？ それが一番効果的なものです」と、お答えしています。

「健康になりたい、元気に長生きしたい」と思って、好きでもない運動や勉強や趣味ごとを始めたとしても、それは苦痛だけで長続きするはずがありません。そのことに効果を期待しても無理でしょう。たとえば、ウォーキングをすれば健康状態が改善するので、長生きが期待されます。では、ウォーキングによって、どれくらい余命が延びるのでしょうか？ あるシミュレーション分析によると、ウォーキングに費やす時間と、ウォーキングによってのびる余命の長さ、両者はほとんど変わらないのだそうです。したがって、もともとウォーキングの嫌いな人が、長生きのためだけにウォーキングを行ったとすれば、それは無駄な時間という他ありません。「健康になるための〇〇」という落とし穴が、実はここにあるのです。

一方、ウォーキングを通じて、街の景色を眺めたり、人との交友が始まったり、そのような^{たの}楽しみが生まれたのであれば、それは素晴らしい時間と言えるでしょう。本書の冒頭に紹介した健康な 80 歳代の方々は、健康で長生きするために様々なことを嫌々ながら行っていたのではなく、自分の好きなことを好きなように前向きに実践しておられた、その結果として現在の健康があったのです。自分が好きなことを好きなように行ってアクティブに暮らすこと、そして自分を愉しむことこそ、健康寿命をのばす方法に他なりません。自分が好きなこと、自分がしたいことは何なのか、なぜ健康になりたいのか、「健康」をもとに何がしたいのか、自分自身が問われているのです。これこそが「健康づくり」の出発点なのではないでしょうか。

そもそも「健康になるために何かを行う」という発想自体が逆転しているように思われます。そこに昨今の「健康ブーム」の落とし穴があるのではないのでしょうか。

もちろん、タバコや肥満などは、健康・疾病との関連がすでに証明されていることであり、健康になるために基本的な生活習慣に留意した生活を営むことは必要最低限のことでしょう。しかし、日本

の状況を見るに、男性の喫煙率は先進国で最も高く、野菜・果物摂取量は減少を続け、男性の肥満度は増加を続け、がん検診の受診率は低迷しているなど、日本人の健康習慣は悪化の一途をたどるばかりです。日本では、健康にとって最も重要な習慣は何一つ変えずに、それ以外のところで「健康ブーム」が進行しているという矛盾があるのです。

言い換えれば、自分自身の生き方はそのままに、何かを自分に「付け足す」ことによって健康という理想的状態に到達できるという幻想に、日本人は支配されているのではないのでしょうか。寺社仏閣での^{まこと}祈禱やお守りから始まって、サプリメントや様々な食品、〇〇セラピーなど、「付け足す」ものは多岐にわたっています。つまり、健康というものを外的な理想的状態と考えたうえで、それに近づけるために外的なものに依存するという、日本人の健康観が見えてくるのです。そのなかに「自己」は見えてきません。

しかし、健康とは何か、なぜ健康でいたいのかという問いを考えると、自分自身のことに立ち戻らざるを得ません。私が「健康」を自覚するときは、生きがいや生きる喜びを感じる瞬間であり、自分の仕事に没頭しているときです。健康というものは客観的な数値で表現できるものではなく、自己の根源に関わる内在的なものではないかと思うのです。そこにこそ、人々が健康を希求する理由があるのではないのでしょうか。医学思想家ルネ・デュボスの名著『健康という幻想』から、一節を紹介します。

「人間が求める健康とは単に身体的な活力と健康観に満ちた状態とは限らないし、長寿を全うすることでもなく、それは人生の理想や目的を成就するために最も適した心身の状態である」

(辻一郎『のぼそう^{けんこうじゅみょう}健康寿命』、岩波書店、2004年、pp.160-164より、一部改変)

注 健康寿命：自立して健康に暮らせる期間。

問1 本文において、「健康寿命」をのぼすうえでどのようなことが大切であると作者は述べているか。単に「長生き」を目的とした場合と対比させて150字以上200字以内で書きなさい。

問2 下線部をふまえて、「健康」であり続けるためにあなたがこれから実践したいと思うことを、550字以上600字以内で書きなさい。